

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年4月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4699200012
法人名	株式会社 グループホーム天望台
事業所名	グループホーム 天望台
所在地	鹿児島県大島郡天城町瀬滝677番地1 (電話) 0997-85-4722
自己評価作成日	平成25年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム天望台は、道路に面して交通の便が良く、施設の周辺には公民館やゲートボール場・駐在所・郵便局・スーパーなどがあり、社会資源に恵まれ、自然豊かな過ごしやすい環境です。公民館やゲートボール場は、ご利用者の散歩コースや災害時の避難場所ともなっております。当施設では、ご利用者様へ防災意識を持って頂くために東日本大震災の発生した11日(毎月)を訓練の日と決めてミニ防災訓練を行っています。また、ご利用者様の、気力や筋力低下防止の為、月2回レクの先生を招き職員や利用者様と一緒に踊りや体操をしたり、地域の行事やユイユイサロン、手作り弁当持参で花見、ドライブなど天候を見て外出を多く設けています。今年は福祉車両も購入し、外出もスムーズに出来るようになりました。園内は、広々と明るく玄関ホールにはソファを設置してあり、ご利用者様やご家族様の話らいの場となっています。玄関には思い出療法として、昔懐かしい壺や石臼等、昔使っていた道具を置いて見たり触れて懐かしんだり、何かを思い出すきっかけを作る1つとして取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ホームは、利便性の良い環境にあり、一般家庭の造りで周囲の住宅に溶け込んでいる。ホームの5周年祭では、地域住民や関係者が多く集まって大々的に開催されたり、地域での行事への参加や小学生や地域のボランティアの訪問もあり、ホームは地域にしっかりと根付き、地域を大切にしている。

・施設の経営者や職員は、常に利用者目線でのケアと「和」を大事にして取り組んでいる。利用者が入院した際には、職員全員で千羽鶴の見舞いをすることが定着しているなど、温かく思いやりに満ちた和やかな雰囲気日々過ごしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	管理者は毎月1回の職員会議で理念にそったケアが出来ているかを話し合い、理念の意識づけと共有を図っている。リビングに理念を掲示し、毎日朝礼時に職員で理念の唱和を行っている。	毎日の朝礼と職員会議で理念の唱和を行って確認している。日々のケアが理念に基づいた実践になっているかを、常に職員全体で意見交換して共有を図り、利用者目線でのケアの提供に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年一回の防災・消火訓練に協力員の方達も参加してもらい、利用者達との交流。町主催のユイユイサロンに参加している。日頃から挨拶に心がけている。	近隣の小学生や地域の婦人会の慰問があったり、地域の行事に利用者と共に参加したり、踊りに職員が参加するなど、地域住民の一員として交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ホームの誕生祭を兼ねて地域の方達と、カラオケや踊りで舞台に立つてもらう機会を作り楽しんでいる。他に、近くの小学校の子供達や婦人会の皆さんが利用者との交流を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、役場や地域の方達の意見を聞いている。地域の方達ともお互いにあるような意見を話し合いながら、協力もしていただいている。	会議は定期的に行われ、じゃが芋掘りの提案を計画に入れたり、ノロウイルス流行時には、対策に取り組んだりして、有意義な意見交換や相談が行われて、運営に反映されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>何か分からない事がある時は、すぐに役場に相談している。役場も相談しやすい雰囲気。運営推進会議でも意見交換をしている。</p>	<p>市担当者とは、電話や窓口にて運営や利用者に関する相談をしたり、研修などの情報をもらったりしながら、日頃より協力関係を築いている。利用者の出身自治体には、月1回訪問して連携を図るようにしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>普段から一人一人に声をかけ、信頼関係を作っているので話合えばわかる。相手が嫌がることはしない。身体拘束はしないようにしている。</p>	<p>「指定基準における禁止対象行為」に基づき、利用者に対する言葉使いや対応に注意し、日中は、玄関の施錠はせずに、外出希望の利用者には、一緒に行動して見守るように努め、拘束感がないように配慮している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について注意をはらっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>資料を用いた研修を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約内容について具体的に説明している。退所についても、家族ときちんと話し合っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ケアマネ兼管理者を苦情相談窓口とし、何かあった時はすぐに運営者に相談し、内容によっては職員全体で話し合い、対処している。また、口では言いづらい事もあると考え「ご意見箱」を設置している</p>	<p>利用者の意見については、普段の会話や表情等から汲み取るようにしている。家族の面会時に話しやすい雰囲気を作りながら、意見や要望を聞いている。直ぐに対応できる事は職員間で協議して、運営に反映している。苦情相談窓口や意見箱も設置している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月給料日を職員会議の日と定め、気付いた事や各月の行事内容など色々な案を出し合ったりしている。職員会議の後は勉強会も設けている。</p>	<p>職員会議やミーティングにおいて、転倒防止のためにカーペットを取り外したり、トイレに可動式の手すりを設置したり、記録用紙の統一を図るなど、活発に意見交換や提案が行われている。代表者や管理者は、職員の意見を運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>働く喜びを感じられるように常に考え、職員自身の健康が利用者に関係することを話し合い、給料も安定させて（正社員5名）不安のない家庭生活ができ楽しい職場作りを目指している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人間形成が非常に大切であり、生涯学習を基本として人づくりを考えている。研修があれば必ず誰かが行うように、町内町外はなるべく全員で参加する努力を重ねている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ケアマネは、他のグループホームのケアマネと連絡を取り合い、勉強会をしたり、ケアマネ協議会の会合に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所予定になった際は、必ず連絡を入れ面接するようにしている。出来ることなら、見学に来ていただきゆっくりと話をするように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所申込用紙を取りに見えた時点で、ゆっくり話を聞くように努めている。遠方からの場合も電話で話を聞き、ファックスや郵送で申込書を送ったりして少しでも安心して申込が出来るよう配慮している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>介護認定を受けていない場合は、市町村に相談して、まずは介護認定を受ける事を勧めたり、早急入所が必要そうな場合は他のグループホームや老人ホームにも申込をすることを勧めたりしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>雑巾を縫ってもらったり、洗濯物干しや洗濯物をたたんでもらったりしている。職員よりも上手なことはまかせたり、教えてもらいながらしたりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所者が精神的に落ち着かなくなったり、体調を崩したりした時には必ず家族にも連絡をとり、一緒に問題解決に向けて悩んだり、ホットしたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をかけるのを手伝ったり、出かけたついでに馴染みの場所へ行ったり、近所の方と会えば話をする機会をもうけている。	日常の会話の中で、利用者が「行ってみたい」と言った言葉を記録して、家族訪問時に、墓参りや住んでいた地域や馴染みの人の所を訪れて、これまでの関係ができるだけ継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	玄関前のソファ椅子に座って県道を歩いている方達を見ながら話はずみ、お互いの昔話に夢中になって、このホームは場所が良いと満足している。様子を見ながら、食堂で座る位置を替えたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会に行ったり、家族の方が遊びに来てくれたり、外で家族の方と会ったら必ず声をかけて近況を話したりしている。また、退所した方のお葬式には花を届け、運営者とケアマネが参列している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所したことで今までの生活を急に変えないように、出来るだけ今までの生活の続きが出来るようにしている。(本読み・写真鑑賞・花植え)	利用者のこれまでの生活やそれぞれが持つこだわりをそのまま受け入れている。思いや希望は、普段の会話や様子観察から把握し、職員間で情報を共有しながら意向に添うように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からだけではなく、家族や入所前に利用していた事業所のケアマネと連絡をとったり、馴染みの方と話したりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族等とも話している。また、スタッフ間でも気付いた事は情報を共有し合えるように努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族やスタッフと話したり、往診や受診の時も基本的にケアマネが付き添い、医師や看護師とも体調のことだけではなく、精神的な面も話すようにしてコミュニケーションをとっている。	家族や関係者には、面会時や往診時に利用者の状況を確認しながら、介護計画を作成し、チームで共有できるように努めている。計画の見直しやモニタリングは、定期的実施し、職員会議や申し送り時に、利用者の状態に応じて協議を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に毎日各勤務ごとに記入し、情報を共有、活用出来る様に努めている。個々の情報が分かりやすいように、必要に応じてその人に合った個別の記録用紙を工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には家族が支援される一方になってしまわないようにと考え、受診等は家族に任せる様になっているが、その時の状況に応じて柔軟に対応している。また家族が遠方の場合、自宅の様子を見に行ったり、お墓参りに同行したり、通院の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	9月の敬老の日には、集落の敬老会に参加したり、協力員・役場・運営推進会役員などの協力を得て、遠足などの交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけではなく、入所前からのかかりつけ医に診てもらえるようにしている。かかりつけ医に対して不安がある時は、家族と話す機会を設け、安心してもらえるようにしている。往診がない医療機関がかかりつけ医の時は、受診の援助をしている。	利用者全員の、かかりつけ医の受診を支援している。他科受診も支援し、必要な医療が受けられるようにしている。協力医療機関により、普段の体調管理と早期の医療連携により、疾病の重篤化を予防し、早期回復につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に訪問看護師と話したり、必要な時は往診時以外も電話で相談したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や、病院の事務や看護師だけではなく、医師やソーシャルワーカーとも連絡をとって対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や医師と相談し、その結果特老に申込をさせていただいている。もしくは、事業所での対応が無理な場合は、医療機関への協力をおねがいしている。	重度化や終末期の対応については、限界まで事業所でできるだけ対応することとしている。早期から医療機関や関係施設とその都度連携を図り、利用者や家族と話し合いながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	平成24年6月の消防訓練時には、本当に火災が発生したと想定し、自動通報装置を使って消防署へ連絡し、消防機関及び協力員に協力してもらい消火器の使い方や緊急時の運び方などを指導してもらいました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	協力員の方や、隣の駐在所にもお願いしている。タバコを吸う職員には特に注意して火の恐ろしさを話し合っている。毎月11日はミニ防災訓練をしている。	昨年は消防訓練と3町合同の津波・地震災害の避難訓練を実施し、毎月11日はミニ避難訓練を行っている。回を重ねるごとに避難の時間短縮が図れている。また、台風襲来の教訓で自家発電機の設置や災害時の水・食料の備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応もさり気なくするよう努力しており、気付いた時は職員同士でも注意し合うように心がけている。	利用者の人格を尊重し、その日の体調やペースに合わせて優しい言葉かけや対応を心がけている。また、着替え時や排泄時には、声かけやドアの開閉に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは、本人の意向を聞く様にし、理解が出来ない時は、何度も説明したりして利用者からの決定を持つようにし、なるべく納得しながら生活出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、出来るだけでその人に合わせて出かけ、淋しい思いをさせないように援助をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	副施設長が美容師なのでボランティアで散髪をしたり、ブラッシングなどを毎日行っている。なるべく、自分でコーディネートした洋服を着てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を変えてみたり、盛り付けを工夫している。食事準備は、一緒に野菜の皮むきをしてもらったり、配膳等や茶碗洗いを手伝ってもらったりしている。	本人の意欲や能力により、職員と一緒に食事の準備や後片付けをしている。差しれの旬の野菜や季節毎のメニューを取り入れたり、弁当持参の外出や外食をしたり、食事を楽しめるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶・牛乳・みきなどを利用者が欲しい時は、お茶時間以外にも摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入歯の方や歯がない方が多い為、一日3回、食事の後はお茶でうがいをしてもらっている。介助が必要な方は職員が見守り等介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	二時間おきに職員がトイレ誘導し、リハビリパンツを使用しないように心がけている。食堂には、排泄チェック表をおいてあります。	排泄チェック表により、排泄誘導を行ない、トイレでの排泄を大切にしている。排便は食事内容の工夫や必要時は緩下剤の調整によりコントロールし、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	月2回講師を招き朝10時～11時まで、レクリエーションをして生活に変化をもたらしている。体操や、牛乳・ヨーグルト・食事等おもに野菜の摂取を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	夏場は、週に3回。冬場は週に2回湯船にお湯を張り、ゆっくりと浸かってもらっている。スタッフの都合が良い時は、決めた曜日以外にも入浴してもらっている。	入浴日は決まっているが、利用者の希望により、個別に入浴支援を行っている。排泄での失禁や汚染時にも随時対応し、清潔保持を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯後も明かりがあった方が良いという人に対しては、つけたままにしたり、冷暖房も本人の好みを優先して調整し、快適に過ごせるようにしている。シーツも汚れてないかチェックし、清潔に出来る様心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の内服薬の内容を一目見て分かるようにファイルに綴っている。疑問に思った時はスタッフ同士で声を掛け合い確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「いつも〇〇さんが洗濯物をたたんでくれて、たすかります」とか、一緒に家事をしてくれて「いつも、ありがとうございます」と言ったりして、本人の意欲と張り合いにつなげるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一緒に散歩や買い物に出かけたり、庭で草花を見たりしている。遠足の帰りにラーメン屋・ファミレスに職員と一緒に外食の楽しみも味わっている。	寒冷期は感染予防対策のため、外出を控えめであったが、天気の良い日は、テラスに出たり、庭や近隣の散歩、買い物や外食を兼ねてドライブに出たり、利用者の要望に応じて、日常的に外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なるべく本人の希望に合わせてお金を所有し、自分で買い物をしてもらうように支援しているが、本人の希望と差があり、なかなかうまくいかないときもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族から、手紙が来たり電話もかかってきたりする。本人が依頼する時は、家族に電話をかけたりにしている。時々自分の住所・名前を書いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に家族からの贈り物の花や、季節の花を飾ったり、写真を貼ったりしている。	共用空間は、季節の花や飾り物、昔懐かしい壺などが置かれて、玄関前のロビーや日当たりの良い廊下には、ソファが置かれ、利用者同士でのんびりくつろいでお喋りし、外の景色を眺めたりしながら、居心地よく過している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関前の廊下・居室前にソファを置き、数名でおしゃべりが出来る場所がある。玄関前のソファは毎日集合場所になっている。ボール遊び・輪投げを楽しんでいる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>部屋には押入れとベッドが備えられ、部屋の外には濡れ縁がついている。使い慣れたベッドを持ち込む人もあり、それぞれがタンス・ドレッサーを持ち込んでいる。亡くなったご主人の写真や孫からの贈り物を飾ったり、自分達で色塗りをしたものを飾ったり居心地良い部屋の工夫がされている。</p>	<p>本人の好みの家具や飾り物、宗教上のこだわりなど、自由に配置してもらい、居心地良く過せるように支援している。以前はカーペットを敷いていたが転倒防止のため取り外し、安全対策にも配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下は全体的に手すりを設置し、なるべく自力で歩行が維持できるようにしている。風呂場の浴室や浴槽に手すりを設置し、トイレ内も手すりを設置している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない